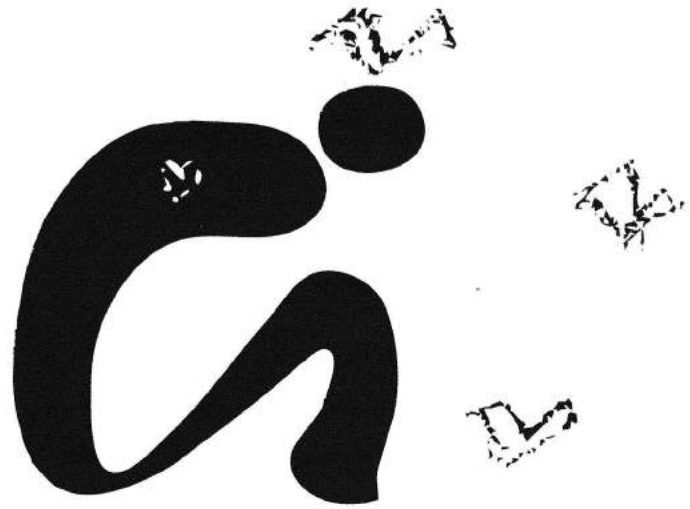


設立15周年記念特集号



NO.43 2004.4

aaqa

法人 日本建築美術工芸協会

aaca 設立15周年記念事業「歴史的建造物保存」シンポジウム

日本工業倶楽部会館の保存について

日時：平成15年12月2日（火）
午後2時00分～4時00分

場所：東京都千代田区
日本工業倶楽部会館
パネルディスカッション

コーディネーター：山口 廣

パネリスト：鈴木 博之
岩井 光男
野上 勇



記録映像 上映開始 「歴史を継ぐまちづくり（日本工業倶楽部会館・三菱信託銀行本店ビル）」

あいさつ



aca理事
協会設立15周年記念実行委員長

近江 栄

本来ですとこの会場であの明るい声と笑顔で、「これからディスカッションをはじめます」という芦原先生のお声が聞かれるはずでありましたし、この15周年を記念した行事の幕開けのつもりでありました。

そこへもってきてまして、少し前に芦原先生の右腕といえますが補佐役として、まさに機関車役を務めていた内井昭蔵先生が亡くなられて、15周年を目前にしてこのお二人が亡くなられて、残されたスタッフたち、理事たちは困惑の限りといえましょうか、さて、困ったなというような時期がございました。

この15周年でどうやら一区切りをつけて再出発という記念的な幕開けとして、このシンポジウムが企画されて大変ご立派な講師の方々をお招きすることができました。そしてもっともこの建物の建設にあたってご縁の深い方々、そして学者としても関わってこられた山口先生に司会をお願いしようと、とっさにひらめきまして山口先生にすっかり私は下駄を預けたというようなところがござります。

岩波新書の『東京遺産』、森まゆみさんという今売れっ子の方ですが、建築出身の方ではないのに建築の勉強を大変よくしていらっしゃる方です。岩波新書の『東京遺産』、森まゆみさんです。「保存から再生・活用」と、このなかに、歴史的眞実性（Authenticity）の原理が保存について重要視されるべきであるということを出ております。多分きょうは、この工業倶楽部が保存されるについてのそのAuthenticityなるものをめぐって、おそらくいろいろなエピソードがうかがえるのではないかと思います。

文化庁長官



河合 隼雄

本日、ここに社団法人日本建築美術工芸協会の主催によるaaca設立15周年記念事業「歴史的建造物保存」シンポジウムが開催されますことを、心から喜び申し上げます。

aaca景観シンポジウムは第1回の京都から昨年の函館まで、開催各地の都市の特性をとらえたテーマを設定され、我が国の都市景観のあり方について提案されてこられました。社団法人日本建築美術工芸協会の皆さま方によるこれまでのご努力に対し、深く敬意を表する次第です。

今回は特徴ある外観と優れた内装で評価が高い、ここ日本工業倶楽部会館において「日本工業倶楽部会館の保存について」というテーマでパネルディスカッションが行われますが、第一線で活躍しておられますパネリストの方々から、多くの示唆に富んだお話を聞くことができると期待しております。

文化庁においては文化財保護法に基づく重要文化財の指定や、さらに平成8年度から本会館も登録されております。登録無形文化財の制度を導入し、後世のために保存及び活用のため、文化財に対してさまざまな布石を講じております。建築物は私たちが生活していくうえでの基本であり、また歴史を語り、先人たちの叡知を語り、文化や風土、さらには経済までもさまざまな角度から物語ってくれるものです。素晴らしい建築物を保存し、活用することは重要なことでもあります。

本日、ご出席の皆さまにおかれまして、それぞれの専用分野から我が国特有の歴史的建造物保存について議論いただき、また一層ご尽力賜りますことを期待してやみません。終りに本シンポジウムのご成功と本日ご出席の皆さま方のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

社団法人 日本工業倶楽部常任理事



新野耕一郎

この建物がもともと竣工いたしましたのは、大正9年、1920年でした。その落成式が同じ年の11月25日に開催されております。今から83年前の11月25日でございます。

ときの総理大臣原敬、あるいは農商務大臣の山本達雄、東京帝国大学の古在総長等がこの壇上で落成祝賀の挨拶をされたのであります。

設立趣意書や定款の目的事項には、「日本工業倶楽部は、工業化の連絡を強固にして工業の発展を図ることを目的とする」と謳われて、我が国の大正あるいは昭和初期の経済産業の発展に工業倶楽部は大きな役割を果たして貢献をしまいたわけでございます。

しかし、工業倶楽部という組織とこの建物はちょっと別でございまして、そういった経済活動がこの建物を本拠にして盛んに行われたものでございますので、この会館は第一次世界大戦による工業の発達、恐慌、戦争、それから敗戦、復興、そして経済成長、バブルといった昭和の経済史全般を通じて、また戦後は日経連とか経団連もここを本拠にしていたものでございますので、常に経済界の大きなドラマの舞台となっております。

我々事務局にいたしましては、この建物を守ることは崇高な使命だと考えてございまして、その保全にはかなりの努力をしまいたわけでございます。その保全ぶりには専門家の高い評価もいただいております。多分、この建物の建替え前に古い建物をごらんになった方はよくご承知かと思いますが、我々としては自信をもってきれいに建物を保ってきたつもりでございます。

しかし、80年歳月による建物の老朽化が著しく、また耐震性も非常に欠如しておりまして、憂慮すべき状態になったわけでありまして。そうしたときに、たまたま三善地所さんに隣接する永楽ビルとの共同開発のご提案がございまして、これを十分に検討いたしまして、建替えもやむなしという結論に達したわけでございます。

各方面からの保存を求める要望が多数ございまして、結果的には都市計画あるいは建築構造の先生たち、行政の関係者、設計の関係者など多くの叡知を集めまして、その熱意と真剣なご努力とあたたかい配慮によりまして、この建物の保存と再現が可能になったわけでございます。

今では工業倶楽部の伝統とその雰囲気も素晴らしい継承された建物に対しましては相当評価が高こうございまして、我々工業倶楽部の会員はじめ、また多くの人たちにとっても満足をしていただいております。

山口 廣氏

日本大学名誉教授



記録映像をごらんいただいたので、ディスカッションの時間が少し少なくなりました。でも、もうこれで大いぶこちら側からおしゃべりする分もご理解いただけたと思いますので、まず最初に、三人の方にそれぞれの立場で、鈴木先生は保存委員会での活躍、それから岩井さんは保存・復元・新築が絡み合った設計、それから野上さんは、その一切の工事のお仕事という点で、まず10分ぐらいずつポイントをお話いただければと思います。

パネリスト

鈴木 博之氏

東京大学大学院教授



私自身がこの日本工業倶楽部と街区全体の開発の中に参加させていただきましたのは、先ほどのお話にもございましたとおり、歴史検討委員会という委員会の中に入れていただいたことによるものでございます。この歴史検討委員会といいますのは、都市計画学会が事務局を務めて、この建物の新しい計画を立てるにあたってどういう点を留意していくべきかということで、都市計画の伊藤滋先生、建築構造の岡田恒夫先生、そして建築歴史では前野堯（マサル）先生、それから計画の分野でタカハシ・ヨウコ先生、そして歴史として私も参加させていただき、そして東京都、それから千代田区、もちろん日本工業倶楽部、それから三菱地所の方々も参加して検討していったわけでございます。

考えてみますと、1960年代になってから非常に多くの建物が姿を消していったという記憶を持っております。

帝国ホテルでありますとか、ここの工業倶楽部の並びにございます日本銀行倶楽部の建物も改築をされていく。

この工業倶楽部の場合、できるだけこの内部の空間の持っている質を継承できないだろうかというようなことをいいました。建物の中に蓄積される情報あるいは記憶の量というのは非常に大きなものがございまして、それがどういう形で守られるかということ、Authenticityというふうに呼んでいるわけですが、Authenticityの考え方というのはここ数十年で大きく変わってまいりましたけれども、一番基本になっているのはデザインが同じであるということ。それから材料が同じであるということ。それから建っている場所が同じであるということ。それから使われている技法、テクニクといいますが技術が同じであることが、Authenticityのコアになっているというふうにいわれております。

したがって、工業倶楽部の場合にもできるだけそのオリジナルのデザイン、そして材料、技術、場所というものが継承されていてほしいということを申し上げた記憶がございまして。

大手町、丸の内、有楽町地区、これを“大丸有”といっていましたけれども、再開発計画推進協議会のその各地権者、開発地帯が大きな意味での丸の内から大手町、有楽町にかけての地区のイメージを形成しておられまして、そうしたイメージの中に合致してそれに貢献するような形を大きな計画としてめざす。そして、この建物固有のいろいろな問題をどう解いていくかということに話があったと思います。

先ほどの映画ではいくつかの可能性のある案が提示されて、3つの案を検討したということでもございましたけれども、実際にはそのさらにバリエーションがございまして、10ぐらいの案まで検討しました。完全にこのまま固定して残すというものから、完全に建替えてしまうというものまで案を地所の方でつくっていただきまして、その中で非常にシビアではありますが、大変に理性的に利害、得失、それと実現の可能性あるいは実現するためのエネルギーコストの大きさというようなものを、ぎりぎりまで検討してこうした形になった。これは大変に大きな成果ではないかと思えます。

もちろん、古いものが残ってしまって自由が効かないと考える方もおられるでしょうし、古いものが残ったけれども、ずいぶん新しくなってしまった部分もあるという不満もある。その中である種の都市の中の歴史性を継承していくルールといいますが、その結論を得るための筋道がここでつくられた。その意味が非常に大きいと思えます。



「歴史的建造物保存」シンポジウム

パネリスト

岩井 光男氏

(株)三菱地所設計専務取締役



丸の内は明治27年の三菱一号館竣工以来、馬場先通り界隈の一丁倫敦と言われた時代から皇居に通じる行幸通り、東京駅周辺の旧丸ビル、郵船ビル、東京海上ビルの街並みを表す一丁紺育の時代を経て現在のよう都市空間になってきました。第二次世界大戦後大規模なオフィスビルが大手町、丸の内、有楽町に次々と建設されましたが、その時に歴史的な建物が幾つか壊されました。しかしその時に建て替えられたオフィスビルも現在では老朽化と機能低下のため建て替えが必要となってまいりました。現在、丸の内における代表的な歴史的建築物として明治生命館、東京駅、中央郵便局と言ったものが残っておりますが、今回の日本工業倶楽部さんと永楽ビルの開発のように歴史的な建物をこれからの街づくりの中で活かして行くことが丸の内の街づくりにとっては大切なことであると考えております。というのは、やはり皇居の緑、お堀の水、東京駅等日本を代表する歴史的な環境遺産は丸の内の財産であると思うのです。私たちはこの財産を有効に使用して行かなくてはならないと考えております。近世復興式と呼ばれる外観様式の

日本工業倶楽部会館の特徴は正面玄関にドリックオーダーの古典様式を用いているが全体的には幾何学的構成によるゼツエーション様式で軸組をファサードに露出させるというアメリカ式高層建築の形式を取り入れているところでもあります。またインテリアは倶楽部建築らしく華やかであり各階の中心にある広間とそれらを立体的につなげる大階段、談話室、貴賓室、そしてなによりも大会堂、大食堂といった大空間に見事な装飾と空間性を見ることが出来ます。横河民輔率いる横河工務所の設計で大正9年11月に竣工して以来我が国の工業界のシンボルとして、数々の経済史上の舞台になってきました。

残り少なくなった歴史的建築物である日本工業倶楽部会館を今後どのように位置づけて丸の内全体の都市計画の中に取り入れて行くのかこの検討については広く当事者以外の有識者からご意見を伺う必要があると考えました。今回は都市計画と建築学の学識経験者、文化庁、都、区の行政、事業者等の参加を得て日本工業倶楽部会館の歴史的価値を共有し、建築物の構造と安全性、事業性、保存再生に

向けたハードとソフト両面の支援可能な諸制度まで提案を頂き実現の運びとなった次第であります。しかし保存再生することは現在の日本ではたいへん難しいということも実感しました。やはり保存再生することはたいへんお金のかかることであり、運営面での資金を潤沢に調達し、将来にわたって経済的に成り立つようにしなければいけない。そのためには社会的な支援が不可欠であります。

今回は日本工業倶楽部さんと三菱地所所有の永楽ビル街区を一体開発することによって経済的な問題点を解決し、さらに保存再生を実現させたと言えます。経済活性化の目玉として「都心再生」と言われていますが古い歴史的な建築物を残すことが可能になった良い事例だと思えます。

現在、赤煉瓦の東京駅舎を出ると広場に面して左から中央郵便局、丸ビル、新丸ビルといった歴史的都市空間を継承する建物の象徴的存在として日本工業倶楽部会館が昔と変わらない佇まいで存在しています。これからも丸の内のランドマークとして末永く人々に親しまれて行くの祈っております。

パネリスト

野上 勇氏

清水建設(株)工事長



保存、解体、再現と光栄にも会館の施工に携わらせて頂きました清水建設の野上と申します。大体の施工のプロセスは先程のビデオにてお判りになったかと思いますが本日は、そうは言ってもと言う生の声を施工担当者として多少お伝えしようかと思っております。

施工にあたりまず我々は、今までご説明のあった上流段階のご設計コンセプトを具体的な施工の言語に置き換える作業から始めました。(実際この様な保存ものは、判らないこと?が多い。)そして、衝撃的な関東大震災当時の写真(柱が挫折している貴重な写真。)に遭遇しました。ここで正直(表向きは80年前の先輩に負けない建物を作ると言う意気込みで乗り込んだ我々でしたが)まず最初に浮かんだことは、本当に保存部がもちこたえられるのか、はたして我々は【文化財破壊者にならないだろうか】と言うことでした。

そもそも、構造的に危ない80年前の被災した建物を補強して、羊羹の輪切りの様に切り取って、その保存部を新築する再現部とアンカーで一体化させると言う難工事が、他社施工のタワー棟の地下躯体を作りながらの上で出来るだろうか。又、超スピードで進む超高層工事と漆喰の様な手作りの保存再現工事がバランス良く施工していけるのだろうか。登録文化財としてビル全体での対応は…実際、今回の工事はあらゆるリスクの(自社工区だけでは回避出来ない物も多い)集合体、正にプロジェクトXでした。

えー余談はここまでにしてそろそろ本題のご説明に入ります。本日は映像を交えて施工の過程をご説明するということ

なので、調査・計画・施工(保存・再現)と段階別に簡単にご説明したいと思えます。(以下パワーポイントにて…)

まず、調査段階で決めた事は、保存の基準：いつに戻すのか 保存の可否：何を優先するのか 耐震基準：何で管理するのか。の3点でした。…過去の補修履歴より耐震管理基準は75db(震度3)と設定しました。実際には、それ以上の地震発生時は…と言うリスクが大きく存在しました。(どの工事にも実は有るのですが不安定な時期が長い。)

次に計画段階ですが、完全計画先行(文化財破壊者にならない為に)を旗印に、調査結果を元に、全て?計画化していききました。…共通して言えることは、異常時には止めると言うこと…でした。(当社開発のウオッチャーにより保存棟を常に計測監視しました。)又、他社施工のタワー棟工事を制御出来るかと言うリスクが存在しました。(実際には、仮囲いの中は一つの協力体制を取りました。)

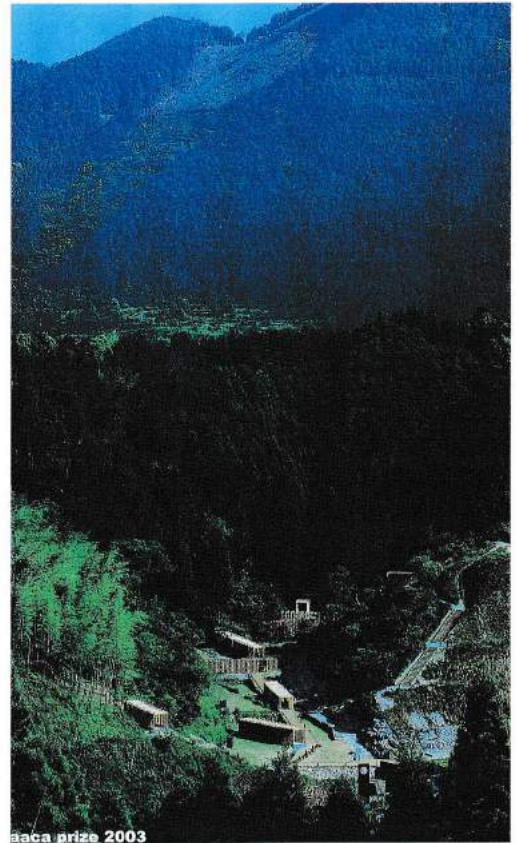
そして施工の段階での工事の状況ですが、まず保存編ではそうは言っても残せないもの(安全的に)の抽出でした。具体的には、屋上の影像のようなものは、わからないものごと切り取って保存し、石膏のような物は、記録を残して安全に再現できる物のみ再現する手法を取りました。(実際に、これで登録文化財の保存になるのかと言うリスク)又、解体・補強の段階では順番の逆転のリスクが存在しました。原則として補強してから解体するのですが、補強の為の解体、このリスクは日々存在したのです。(保存部の図面が無い為)曳家に至っては、果たして松杭から3段階で3,600tもの保

存建物荷重を移して行けるか、又、リセット時の建物の傾きをどうセットしていくのかのリスクが存在しました。次は再現編。何と言って正面玄関のドリックオーダーです。一番重いもので14t、結局文化財の稲田石をくり抜いて梁をPC化して無垢の柱に連結して再現しました。内装の再現部は工法も再現と言うことで、漆喰は木措りから再現しました。しかし、そうは言っても工期と言うものが有る為、再現場所を限定した計画としました。(以上、写真説明)

この様に80年前に直営工事で延べ約90,000人で作ったこの建物は、80年後に約70%の延べ労働力で無事再現する事が出来ました。又、工事を終えてみて、一部手を加えたものの本物が完全に残ったということも、(前に倶楽部の新野常任理事が言われていた様に)100年後の人達が180年前の本物を見る橋渡しをしたと言う事であり、言いようのないロマンと施工者冥利に尽きる満足感が残りました。果たして【文化財破壊者にならないだろうか…】結論をお出し下さい。ここにおられる事業者の方々をはじめご指導頂いた関係者の皆様、そして設計者の皆様ならびに特にタワー棟施工の大成建設さんには施工上のご指導ご協力有難うございました。ここに(写真)今回参画した50種ほどの関係職種職長連がおりますが、今回、二度と携われないであろうこの様なBIC PROJ.に参画できた感謝の気持ちを代表してお伝えしてつたないご説明を終わりにしたいと思っております。ご清聴有難うございました。



第13回AACCA賞
 作品：鹿北町アートプロジェクト
 作者：山田 良
 所在地 熊本県鹿本郡鹿北町 道の駅「かほく」後背地



| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 選考委員長 | 近 江 栄 | ゲスト選考委員 | 横 河 健 |
| 選考委員 | 會 田 雄 亮 | // | 柴 田 いづみ |
| // | 小 林 治 人 | | |
| // | 松 本 哲 夫 | | |

総 評

第12回（前年度）AACCA賞は、あらたに芦原義信（会長）賞が新設されたこともあって応募点数の大幅な増加が認められたが、今年度（第13回）はAACCA創立15周年記念でもあってさらなる応募を期待したが公募のアナウンス・PRが若干タイミングを失ったことだけではなく時代の不況も反映されたようで伸びなやんだ。

因みにBCS賞という分母の大きな賞

の展開も発足第1回は28点その後10回は36、15回は64、そして今年度は84と漸増してはいるが昨年より2割減の応募点数ということだ。

今回のAACCA受賞者の中にはすでにBCS賞など各種の受賞歴はあってもとくに「アーティストとのコラボレーションによって開かれた芸術的環境の創出に貢献した作品とその成果に対して与えられる」のが本賞の趣旨であり重賞はさま

たげない。

新設された芦原義信賞（街並の美学）の趣旨は「優れた創造的環境形成に寄与した未来ある新人」を発掘しようというものである。

前回はプロジェクトの規模に左右されることもなく芦原賞を象徴するような作品が受賞し、今回も入選作品が三点選ばれている。

選考委員長 近江 栄（建築史家）

審査講評

熊本県鹿本郡鹿北町の「道の駅」の裏山の、もとは棚田であった敷地と谷間の地形を生かして、角材を四角に組んだ構造体が点在している。角材は、町有林のアヤ杉の間伐材を地元で製材したもので、柱と梁の接合は、ホゾ、コミ栓といった伝統的な日本建築の工法による。高さ2メートル程のそうした木組みを、ほぼ12メートルの長さで立て並べた、シンプルな構造体が、棟ごとに、やや芯をずらしたり、高さを勾配に添って変えるなど変化をつけて、十棟不規則に連なり、人々は板を貼りつめたその中の通路を散

歩することができる。

これは鹿北町が「道の駅」一帯の公園化を計画、熊本県のアートポリス事業に参加したもので、268点の作品応募のなかから選ばれた。自然のなかに、自然材だけを素材にした、木組みだけの素朴なこのオブジェ群は、地元でも、ただ「オブジェ」と呼んで親しまれている。「マムシに注意」との立札に驚かされたが、夏には蛍が群れ飛ぶというこの山間の、自然を生かしたアート・プロジェクトは、きわめてさわやかで夢のある作品である。アートと町当局と「道の駅」に集

う人々と、さらに若いアーティストとエコロジストのコラボレーションの場として注目される。

シンプルな、コンストラクションの原点そのものによるこの作品は、ハイ・テク万能の今日、完全にロウ・テクによって作られていることにも、一つのメッセージ性がある。前回第12回の受賞作「丸の内ビルディング」の対極にあるこの作品が選ばれたことで、AACCA賞の味がまたしたのではなからうか。

選考委員 加藤 貞雄（美術評論）

第13回AACA最優秀賞

審査講評

この作品は、「生き物技術」と「建築技術」が好ましい形で協同して、都市環境における緑のあり方について社会的認識をアピールした作品となったといえる。

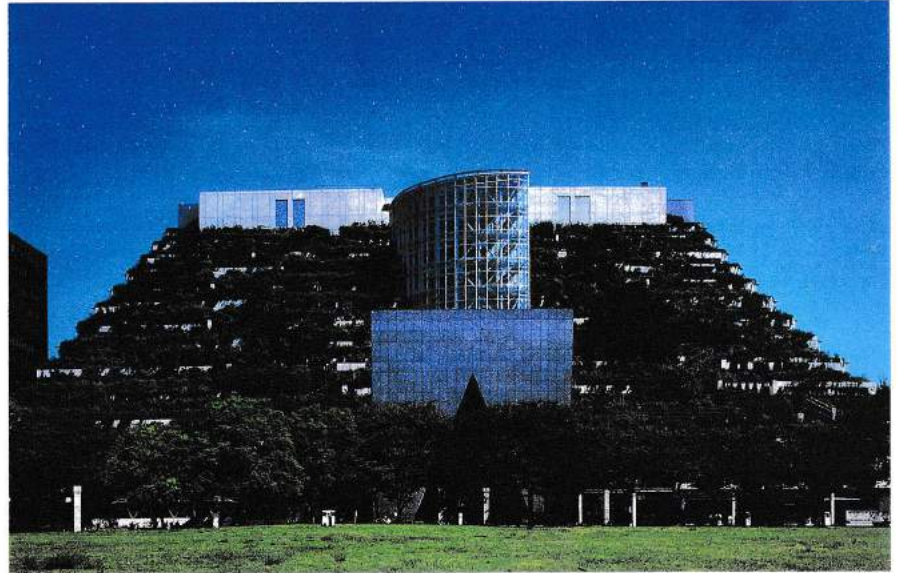
県庁跡地として市民生活に定着していた空間に、官民一体となって建設された複合施設の南側の屋上を、ステップガーデンとすることによって南側に隣接する天神中央公園の緑と一体となって貴重な都市の森を構成し、そのことによってヒートアイランド化の緩和、断熱効果による省エネ化、建物の劣化防止、生き物空間の提供、人々への身近な緑の安らぎ空間の提供、など都市環境の改善に貢献していることであるが、従来、aaca賞には芸術的環境造りということで多くの作品が応募されてきたが、その多くが建物と彫刻作品のような自己完結型の芸術作品が多かった中で、生き物の技術と建築技術の協同によるこの作品は、地域に開かれた形で連携し、隣接する公園と良く調和一体化しながら四季折々の情景を楽しむように、多品種の植栽が施されていることなど評価できる点が多い。

建築家中心の屋上緑化の場合、一面芝生・セダム、あるいは単一植物による刈り込みが多く、自然の素材感が薄れ、さらに刈り込みに管理費がかかる、病気に弱い、など問題が多かったが、ここでは

植栽時に76種の植物を配植したことにより、植栽空間の遷移が好ましい形で進行している。さらに手摺りに羽を休めた野鳥の糞から種子が発芽してクスノキなどの幼木が並んでいる様子はほほえましく、現在では110種の植物が繁茂している。これらの植物の生育基盤である土

壌は、軽量混合土を効果的に使用し、排水システムも雨水などが効率的に植物が吸収しやすくしたことによって、給水の必要がほとんど無いことなど、管理費が安価になった原因となっている。今後この種の応募の増加に期待したい。

選考委員 小林治人（設景家）



第13回AACA最優秀賞

作品：アクロス福岡

作者：浅石 優／(株)日本設計 平田 哲／(株)竹中工務店／ 田瀬理夫／プランタゴ

所在地 福岡県福岡市中央区天神1-1-1

第13回AACA賞入選作品

第13回AACA賞入選

作品：旧新橋停車場

—歴史を再現し、現代を表現した外装のデザイン—

作者：旧新橋停車場復元チーム（デザイン総括：田原幸夫）

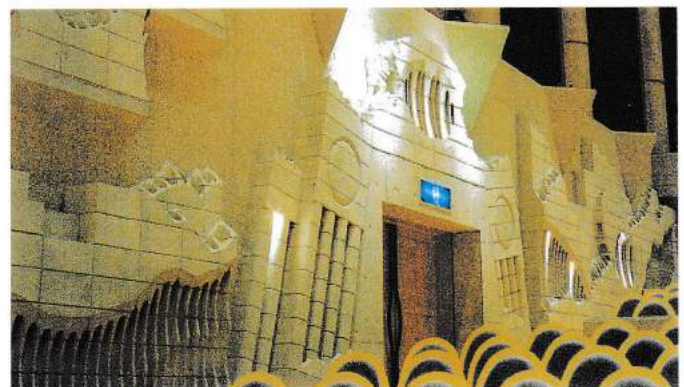
所在地 東京都港区東新橋1-5-3

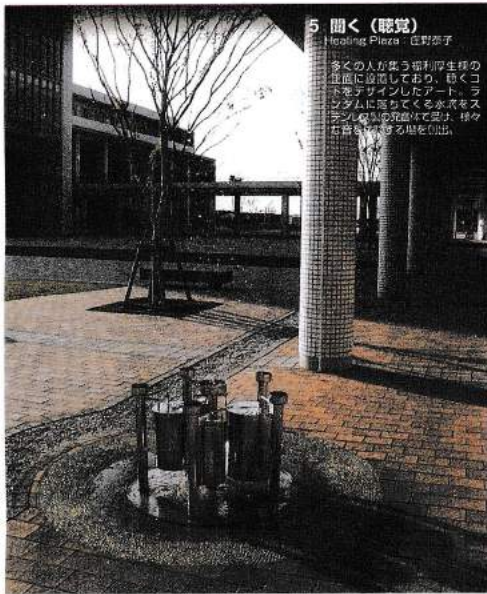


作品：佐敷町文化センター「シュガーホール」

作者：真喜志 好一、能勢孝二郎

所在地 沖縄県佐敷町字佐敷307



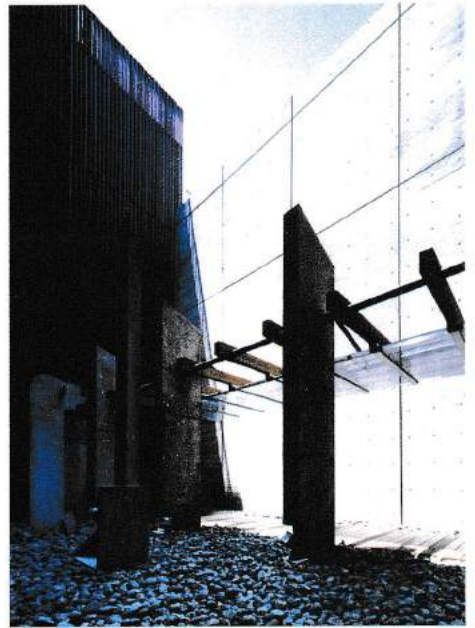


5 聞く(聴覚)
Healing Piece 庄野 悠子
多くの人が集う福利厚生棟の
位置に留意しており、聴くコ
トをデザインしたアート。ラ
ンダムに置かれた多様なステ
ーションの配置は、様々な
音響効果を生み出す。

作品：福岡県立大学看護学部人
間の五感をテーマとした
アート計画

作者：福岡県建築都市部営繕
課、安井・雅禧・西島・熊
平設計共同体、(株)織絵、
団塚栄喜、熊谷玄、庄野
泰子

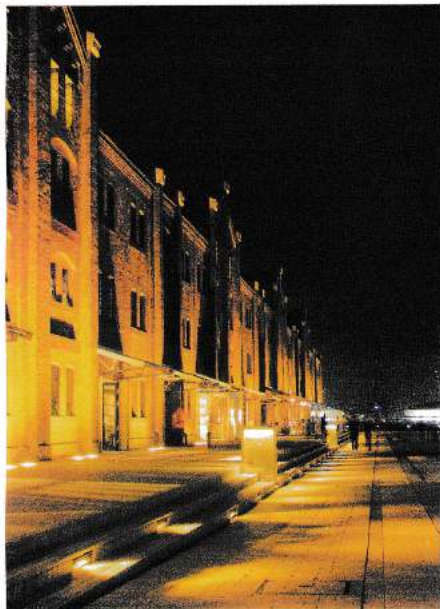
所在地 福岡県田川市伊
田4395



作品：ミュゼ・ダール御殿山

作者：(株)三菱地所設計

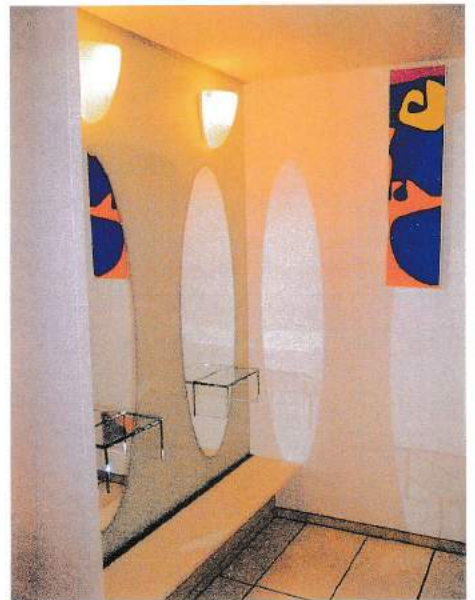
所在地 東京都品川区北品
川4-7-10



作品：横浜赤レンガ倉庫

作者：横浜市・(財)横浜市芸術文化振
興・(株)横浜みなとみらい21・
(株)横浜赤レンガ・(株)新井千秋
都市建築設計

所在地 神奈川県横浜市新港1-
1-1・2



作品：東急百貨店本店 客用トイレ 全館リ
ニューアル

作者：荒井雄一デザイン事務所

所在地 東京都渋谷区道玄坂2-24-1



産業と文化の原風景「ノリタケの森」

作品：『ノリタケの森』

作者：大成建築(株)設計本部 環境デザイングループ 蕪木伸一・
山下剛史

所在地 愛知県名古屋市西区則武新町3-1-36

第2回芦原義信賞

第2回芦原義信賞

作品：名古屋クロイゾンスクエア [安藤七宝店本店計画]

作者：永井久夫(株)竹中工務店設計部

所在地 愛知県名古屋市中区栄3-27-17

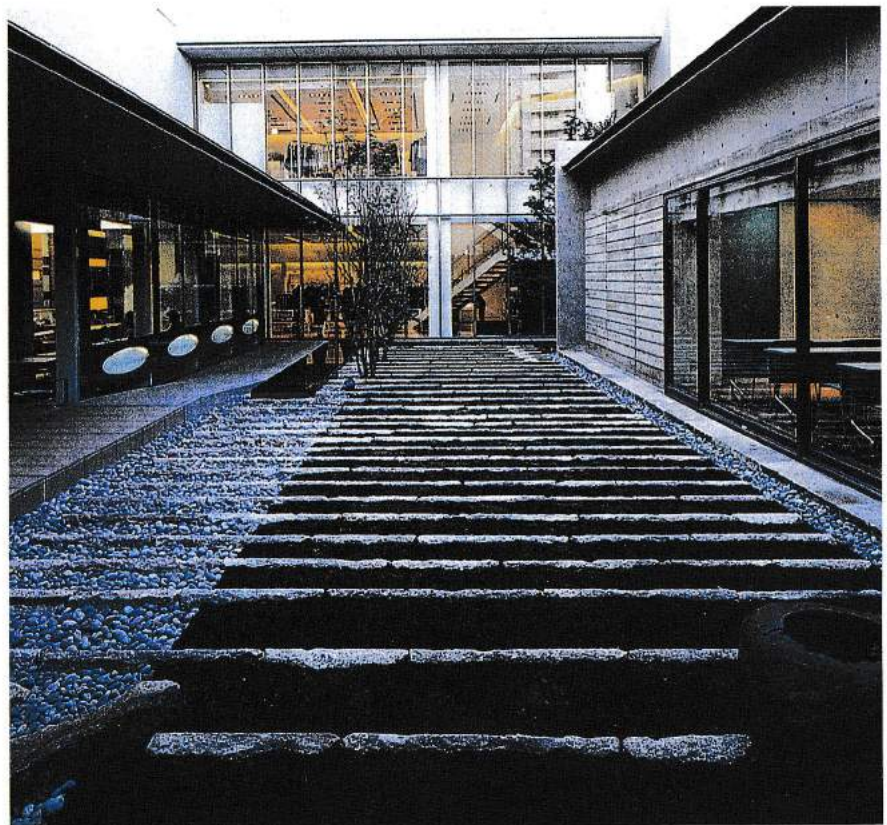
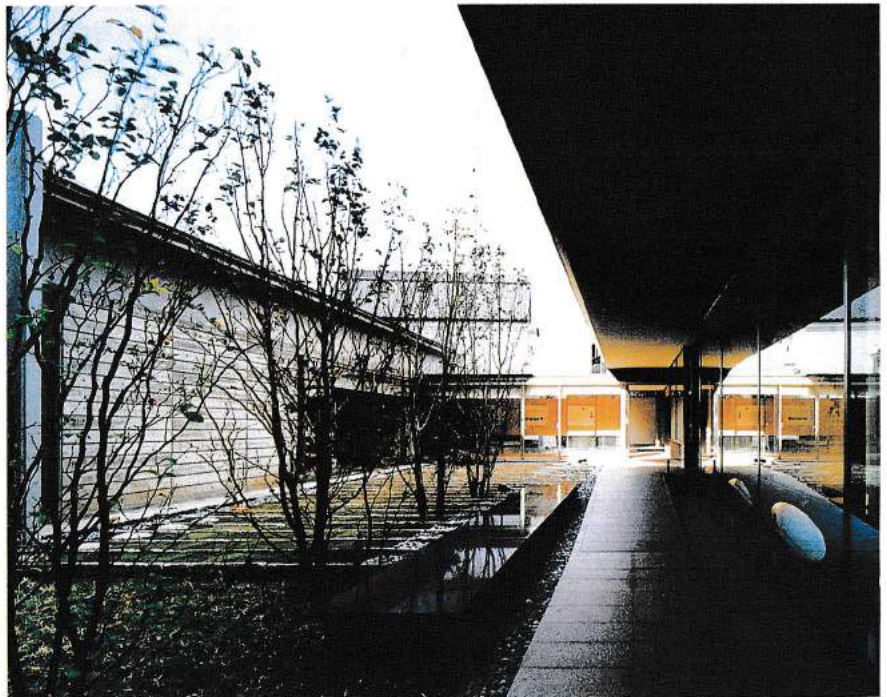
審査講評

安藤七宝店本店は名古屋の都心、栄の大津通りに面して立つ貸店舗ビルにマックスマーラを入れ、本店は、その右脇及び隣2棟のビルの中に、奥深い路地を入った先に蔵と本店及びカフェの3ブロック低層棟に囲まれる庭園を持つクロイゾン・スクエアと称する大人のためのゆとりの空間である。

大津通りに面するビル棟は周囲のビルから見ると低層であるが、そのモダンデザインの手堅い細部を持つ美しいプロポーションは見事に街並み形成に役立っている。

そして、七宝店の存在を知る人ぞ知ると言う自信の裏付けがあると見る事が出来るのは、左右のビルの狭間で通りの喧騒をふり拂う様に奥深く入る路地は、その先に展開する中庭と店舗への期待を大きくさせる効果がある。初めて低層のキャノピーや、薄暗い空間の先に白い蔵の壁と前庭の緑が明るく、みかげ石敷の通路は左に店舗、右七宝蔵部への通路を持ち、直進すると2~3段下って左にカフェ棟、右に中庭、正面にマックスマーラの店舗の中が見える。この中庭の造形は、石と緑と低木の配置が絶妙なバランスを保っていて、七宝蔵部の新しい展示棟のガラスと打放しのコンクリート壁が背景になっている。随所に七宝をほどこした水盤、壁面、扉の押板等々がさりげなく使われているのも好ましい。蔵の中は、120年の歴史を物語る各年代の名品が七宝技術の伝統を見せてくれる。この都心で隠れた狭間に存在する豊かな空間は芦原義信賞にふさわしいと考える。

選考委員 松本哲夫 (インテリアアーキテクト)



第2回芦原義信賞入選作品

審査講評

井之頭学園70周年記念館は吉祥寺駅から繁華街を抜け、少し住宅地に差しかった所に位置しているものの、道幅も狭くとても学園としてのゆったり感を表現することができないところである。ま

た敷地自体もウナギの寝床の如く細長く、さらに、その敷地に学園の教室ばかりでなく体育館兼用の講堂ホールを設けなければならないというプログラムが重なっている。しかも建設コストを極端に

押さえながら…の制約付きということらしい。

設計者はそれでも町並みに優しくと考え、住宅地側の道にはバッファーとなる植栽を施すばかりでなく窓割りの細かいリズムを作るなどの工夫がなされ、このリズムは同時に構造ピッチと重なってこの建築計画がシステムティックなものであることが理解できる。配筋や型枠工事の効率ばかりか室内のプランニングと空調設備計画、またパーティションや建具にいたるまでの合理的なコスト効果が期待できるというわけであろう。

この建物は、正直すば抜けた建築というわけではない。しかし、あらゆるところに町医者の知恵を施す努力が見られ、安易なゼネコンの設計という印象を払拭していることは評価に値する。このことから芦原義信賞入選にふさわしいと考える。

ゲスト選考委員 横川 健



作品：井之頭学園70周年記念館
作者：(株)竹中工務店 東京本店設計部 赤坂喜顕
所在地 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-18

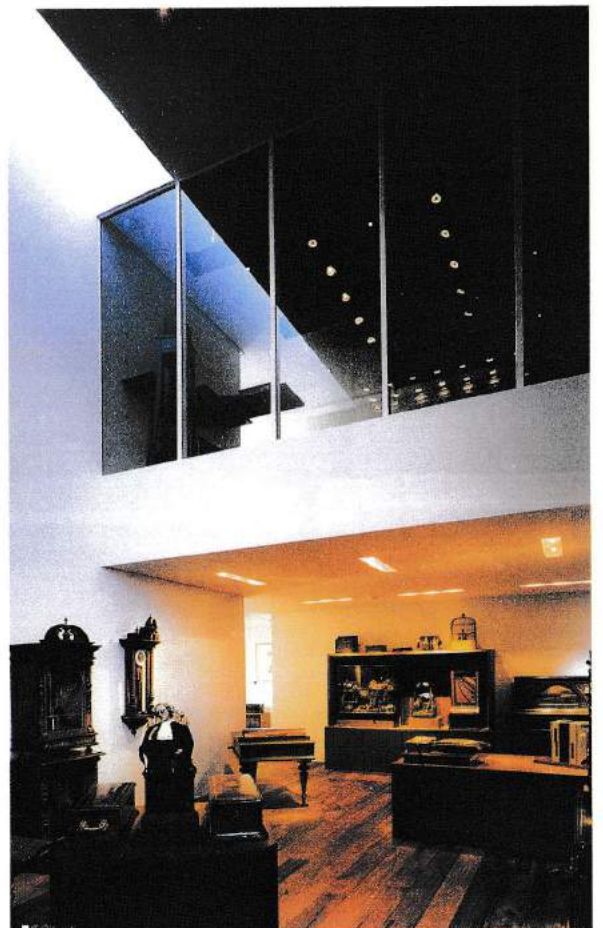
芦原義信賞入選

芦原義信賞が「優れた創造的環境形成に寄与した未来ある新人」に与えられるものであり、著作のベストセラーズ「街並の美学」の趣旨を具体化した作品を求め審査に当り四人が見学した。おそらくこのオルゴールの小さな博物館の建築が誕生したことによって周辺の街並が肩を並べて美しく再生を促進する原点となるに相違ない。

印刷業経営者個人が30年に及ぶ年月と私財を投入し200年以前からの文化的とも見える世界各国のオルゴールの名作を収集し美しい空間に展示し、希望すれば演奏を演奏させてくれる。外観は控え目で美しい白い壁とガラスで清楚な佇まいが好ましい。

選考委員長 近江 栄

作品：オルゴールの小さな博物館
作者：KAJIMA DESIGN (小菅 克己+上网 修+小野和幸)
所在地 東京都文京区目白台3-25-14



aaca 15周年記念講演会開催にあたって



aaca理事会員交流委員会委員長

YOSHIMURA TADAO

吉村忠雄

開催に当たってaacaは過去に多くの町の景観シンポジウムやその道のプロといわれる美術、工芸家の方々のトークを積極的に行って来ました。

今般これに加えてまちづくりを行う施主や設計事務所、建築会社の幹部の方々による都市の未来や建築文化論についてお聞きする講演会を立ち上げました。

第一回は三菱地所(株)より都市計画事業室 遊佐副室長をおまねきし「大手町、丸の内、有楽町地区のまちづくり」について、昨年10月22日TOTOテクニカルセンターで講演会を行いました。当日は100名の会場に立見席が出る程の盛況で遊佐副室長の熱弁に90分がまたたくまに終わってしまったと記憶しています。

いかにこれからは息の通ったまちづくりが必要であるのか痛感した次第です。又、関心の高さも改め認識しました。

aacaではこのような建築に於ける今日的テーマを主として年内に8回から9回の予定で会員の皆様方に情報提供を行っていく予定です。

奮ってご参加いただきたいと思います。

現在企画している講演会について

1. AACAA交流講演会スケジュール予定表 (会場)

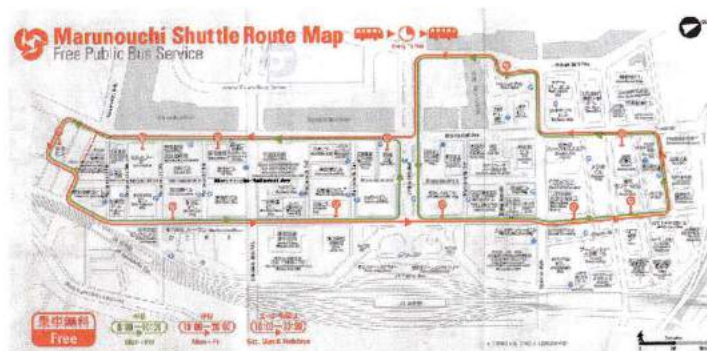
- 3月25日 (株)久米設計 岡本社長他 コトブキ
- 7月14日 芦原太郎建築事務所 コトブキ
- 10月26日 大成建設(株) 可児常務 大成建設
- 11月10日 (株)安井建築設計事務所 佐野社長 コトブキ

その後の候補

- 三井不動産(株)・三菱地所(株)・(株)日建設計
- フラックス・デザイン (客船日本丸担当)
- メックデザインインターナショナル (客船飛鳥担当)
- 隈研吾建築都市設計事務所 森ビル
- (株)NTTファシリティーズ

2. 建築と文化 (アート) を語るタベスケジュール予定表

- 4月26日 (株)IRIYA帛屋顧問 ユニオン
- 5月28日 (株)安井建築設計事務所 森設計部統括主任 ユニオン
- 6月 9日 竹中大工館 赤尾館長 ユニオン
- 9月 (株)久米設計 佐藤取締役(予定) ユニオン



1. NPOが運行を支援する無料巡回バス「丸の内シャトル」



三菱地所㈱ 都市計画事業室副室長

YUSA KENTARO
遊佐 謙太郎

東京都千代田区大手町1-6-1
TEL 03-3287-5398

大手町・丸の内・有楽町地区のまちづくり

日本の中心駅である東京駅を擁し皇居に臨む、大手町・丸の内・有楽町地区(以下当地区)においては、明治以来約115年のまちづくりの歴史があります。第1期は明治中期から第2次世界大戦までの、馬場先通りを中心に三菱一号館等の赤レンガ建物群により「一丁ロンドン」と呼ばれたまちづくり、また大正3年の東京駅の完成を期に行幸通り沿いの旧丸ビル・旧郵船ビル等の建物群により「一丁ニューヨーク」と呼ばれた、当時の最新の西欧文化を取り入れたまちづくりでした。第2期は昭和30~40年代の日本の高度成長期に、丸の内・有楽町地区を中心にそれまでの赤レンガ建物等を100m×100m程度の大きな街区として建て替え、31mに建物の軒線の高さが揃えられた群として統一感のあるまちづくりでした。これらのまちづくりのあ

り方は首都東京の景観として広く市民の心象に刻まれたものとなりました。

こうした経緯を踏まえ、第3期においてはまず当地区の地権者により構成される「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」が昭和63年に設立され、平成8年からは東京都・千代田区と協議会及びJR東日本がこのまちの将来像を公民協調により共有化して取り組む「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会」が設立されました。この懇談会が作成した「まちづくりガイドライン」(平成12年)は、当地区の将来像について機能やインフラネットワークの形成等に加え、既存の街並み景観の特徴を継承する再開発の考え方を含むものです。そして平成14年に建て替えられた丸ビルに見られるようにこのガイドラインに定められた将来像に整合する再開発を進め

ています。

またこの第3期の特徴として、それまでのオフィス機能が中心であったまちづくりから、街の賑わいや商業・文化・交流機能といった複合機能化を図り、より一般の人々に開かれたまちづくりを行っています。その際より多くの人々が街の活性化に参加できるよう、まちの開発から運営面に視野を広げ、平成14年には「NPO大丸有エリアマネジメント協会」が設立されました。まちの視察会の開催、東京ミレナリオのサポート活動等地域活性化・多様なコミュニティの形成活動を行い、トータルとして就業者や来街者の方々がより充実した時間を過ごして頂けるまちづくりを目指しています。

写真の題名

1. NPOが運行を支援する無料巡回バス「丸の内シャトル」
2. 明治40年代の馬場先通り(一丁ロンドンと呼ばれた街並)
3. 現在の大手町・丸の内・有楽町地区空撮



2. 明治40年代の馬場先通り(一丁ロンドンと呼ばれた街並)



3. 現在の大手町・丸の内・有楽町地区空撮

aaca 15周年記念展覧会出品作品

開催主旨

21世紀、日本は世界を凌駕する繊細な感性に恵まれた国民的資質を生かして、文化大国として世界の平和に貢献することであるとする意見が聞かれる昨今です。

わが国文化活動の先駆的組織であるaacaでは、設立15周年を記念して“業・技”展を別紙ご案内の内容で開催することといたしました。aaca賞・芦原義信賞受賞作品のほか文化庁海外派遣作家作品、会員作品、法人会員の斯界を凌駕する技と業を展示して、出展作家と法人会員の存在・実績を広く社会に紹介することを意図したものであります。

多くの方の御参加をお待ちしています。

15周年記念事業実行委員長
近江 栄

社団法人日本建築美術工芸協会 15周年記念展覧会

会場：江戸東京博物館1F会議室
主催：(社)日本建築美術工芸協会
協催：東京都江戸東京博物館
後援：文化庁・(社)日本建築学会
会期：2004年2月12日～2月26日

I 出展作品

- 1) 企業出展（ブース） 18社
- 2) AACAA賞及び芦原義信賞受賞作品 24点
平成15年度AACAA賞・芦原義信賞入選作品 8点
- 3) 文化庁海外派遣研修員作品 5点
- 4) 個人作家作品 52点

II 展覧会入場者数総4,800名

III オープニングパーティ開催

江戸東京博物館内レストラン「モア」において開催
参加者数178名同館開始以来の参加者を得て盛会裡で終了



aaca会長



江戸東京博物館館長



近江記念事業実行委員長



乾杯風景



懇談風景



会食風景

oaca 15周年記念展覧会出品作品



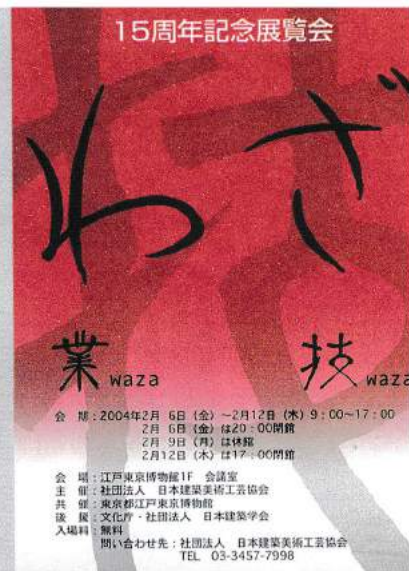
鮫島 貴子
大地の声



高濱 英俊
水のかたち-prayer



村松 勢津子
dialogue



ポスターデザイン 坂上直哉



三木 勝
甞る男



中村茂幸
NYORO-ARCH



長谷川 双葉
思考と魂について



小野寺 優元
Expansion



和田 やよい
水都



島田 満子
Genesis



渡辺 百合世
美しき夢



岩田 実
北辰



長尾 孝明
毘(ビ)



島袋 英求
忘れえぬ人々シリーズ



山本 明良
Time's Gate 一時の門



中村 弘子
Crop Circle

oaca 15周年記念展覧会出品作品



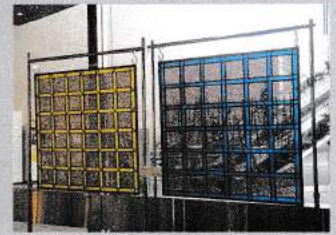
會田 雄亮
岳稜



坂本 和正
痕跡



川原 昭
エナジーNo.5



平山 建雄
光の視座 I II



笠原 祥子
Trials for Architectural Space IV 作品C



澄川 喜一
そりのあるかたち



鍵井 保秀
Love pop-0331



佐藤 静子
Le pure



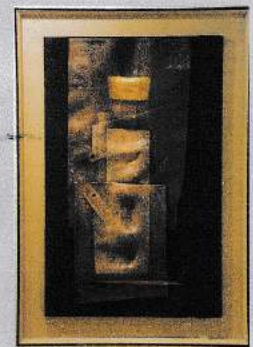
中川 千早
Some where



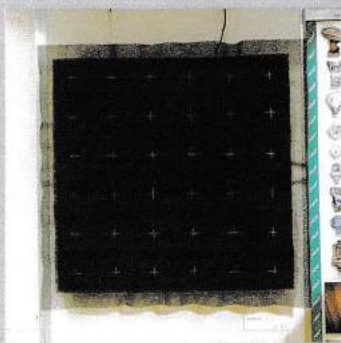
鬼頭 正信
気の華



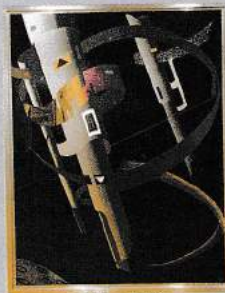
砂晶 睦子
燦燦...



山崎 輝子
記憶の扉



山中 良子
光がぬう時



赤堀 郁彦
大気導体-03



日高 單也・二井 進
アーキ・テクノ(株)
マドンナ '04



鈴木 雅博
ふう

oaca 15周年記念展覧会出品作品



高田 幸子
はなやかな灯



香川 亮 (マコト)
風の楽園



巖佐 純子
Landscape



越智 義一
作品 (K~W)



柳田 恵美子
ミラー



梁森 健一
笠間芸術の森公園
陶の杜



土屋 壽満
光響



名柄 昶子
宴



片岡 葉子
MEMBRANE



世木田 茂樹
都市構造作品



笠原 オリエ
東京の季×3



坂本 菜子
コンフォートスペース
(快適トイレ)



田河 宣行
flower



雨山 智子
植物的空間 work 01・02・03

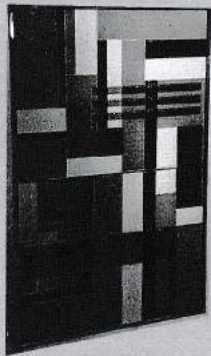


はやし まりこ
想-R 想-B



笠原 祥子
Trials for Architectual Space IV 作品A

oaca 15周年記念展覧会出品作品



笠原祥子
Trials for Architectural
Space IV 作品B



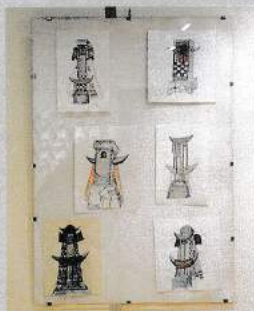
山口和加子
吉田 淳子
works



小原 輝子
日時計(サンタイトル)



絞島 貴子
アトリエ アーティス
鳳凰



長尾 孝明
昆に至るスケッチ類



安河内 敦子 (文化庁派遣)
プリアデス45



高部 多恵子 (文化庁派遣)
游2004-1(版画) 游2004-2(版画)



中村 弘子 (文化庁派遣)
光のメッセージ



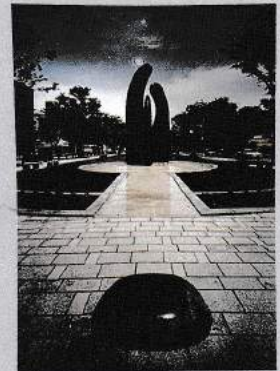
中村 清美 (文化庁派遣)
401・江戸



間地 紀以子 (文化庁派遣)
囚われた生命



(株)日本設計・上 哲男
第1回AACA賞
東京都多摩動物公園昆虫生態園昆虫ホール



速水 史明
第3回AACA賞
鹿児島市みなと大通り公園モニュメント
(悠雄) 並びに一連の彫刻作品



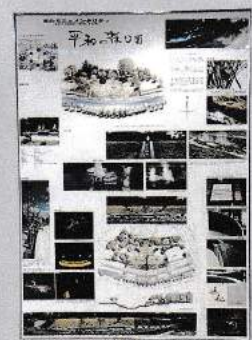
土屋 寿満
第4回AACA賞
門真市南部市民センター森林浴体験室
「森林回廊」



サッポロファクトリー・
デザインチーム
第4回AACA賞特別賞
生活工房・サッポロファクトリー



(株)日建設計(亀井忠夫)
第5回AACA賞特別賞
JTビル



上山良子
第6回AACA賞
長岡平和の森公園

AAQA 15周年記念展覧会出品作品



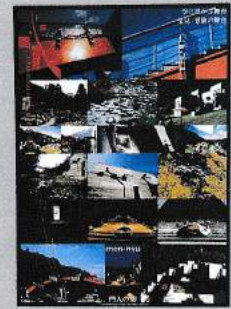
さっぽろホワイトイルミネーション
実行委員会会長 薩 一夫
第6回AAQA賞特別賞
さっぽろホワイトイルミネーション



(株)坂倉建築研究所
西野康浩・椎名啓二
第6回AAQA賞特別賞
茅ヶ崎公園プール



片山利弘(株)日建設計
第7回AAQA賞
三井海上千葉ニュータウン本社ビル他、
一連の建築における空間造形



多田 善昭
第7回AAQA賞特別賞
門入の郷 (mon-nyu no sato)
門入ブリッジ・椿の城・冒険の舞台



(株)石本建築事務所
広島県広島女子大学
シース環境開発企画
第7回AAQA賞特別賞
広島女子大学



札幌市
アーキテクトファイブ
第8回AAQA賞
モエシ沼公園



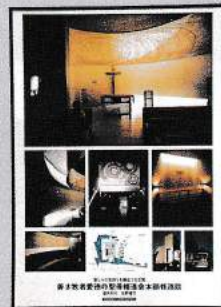
オフィス ショウノ
第10回AAQA賞
潜在する音の海-Wave Wave Wave、umi-Tsukushi」、ラ
ブゼいたま「ウインド・ノーション」、穂定ふれあいの森
サウンド・モニュメント、国岩越後丘陵公園「冒険
の丘」フォーリーサウンド・オブジェ、瀬島文化センター
ウオー・スクリーンの丘舞祭場「風のペンチ」サウン
ドインスタレーション等一連のサウンドスケープデザイン



アーキテクトファイブ
第10回AAQA賞特別賞
鳥取県立フラワーパーク



日高 単也、山本 誠、小野行雄+
群馬県明和町、(株)近代造形
第10回AAQA賞特別賞
明和町(群馬県)町制施行記念モ
ニュメント



堀木エリ子+(株)竹中工務店
第11回AAQA賞
善き牧者愛徳の聖母修道会 本部修
道院



atelier+板面イタエ 秋田昌子
第11回審査員奨励賞
青森県男女共同参画センター アビオあおも
り 内部イベントホール外観壁面(3面)
oh-AOMORI RINGO・YAMA・YANE



山形県建設工業団地協同組合デザイン開発機
構、(株)環境計画研究所、その他、制作に関
わる子どもたち、職人、関係者の方々
第11回審査員奨励賞
霞城セントラル やまがたアートチェア
プロジェクト



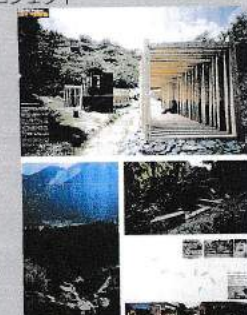
(株)竹中工務店広島支店設計部
川北 英、門谷和雄
第1回芦原義信賞
アートガーデン



代表(株)三菱地所設計
第12回AAQA賞
丸の内ビルディング



葛西 薫+(株)アンドーギャラリー+
(株)山下設計
第12回AAQA賞奨励賞
東京都立つばさ総合高等学校ウォール
グラフィック "Wisdom on Wall"



山田 良
第13回AAQA賞
鹿北町アートプロジェクト

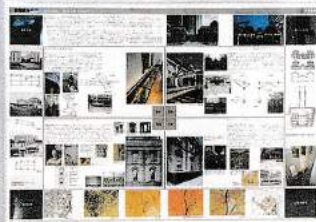
AAQA 15周年記念展覧会出品作品



浅石 優 ((株)日本設計)、
平田 哲 ((株)竹中工務店)、
田瀬理夫 (プランタゴ)
第13回AAQA賞優秀賞
アクロス福岡



永井久夫((株)竹中工務店設計部)
第2回芦原義信賞
名古屋クローゾンスクエア
安藤七宝店本店計画



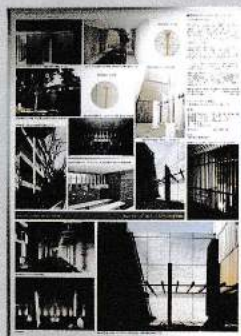
旧新橋停車場復元チーム
(デザイン総括: 田原幸夫)
第13回AAQA賞入選
旧新橋停車場—歴史を再現し、現
代を表現した外装のデザイナー—



福岡県建築都市部営繕課、安井・雅
禎・西島・熊平設計共同体(株)織絵
第13回AAQA賞入選
福岡県立大学看護学部人間の五感を
テーマとしたアート計画



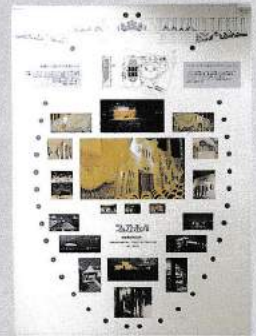
大成建築(株)設計本部 環境デザイ
ンググループ 蕪木伸一・山下剛史
第13回AAQA賞入選
「ノリタケの森」



(株)三菱地所設計
第13回AAQA賞入選
ミュゼ・ダール御殿山



横浜市・(財)横浜市芸術文化振興
財団・(株)横浜みなとみらい21・
(株)横浜赤レンガ
(株)新・千秋都市建築設計
第13回AAQA賞入選
横浜赤レンガ倉庫



真喜志 好一、能勢孝二郎
第13回AAQA賞入選
佐敷町文化センター「シュガホール」



荒井雄一デザイン事務所
第13回AAQA賞入選
東急百貨店本店 客用トイレ
全館リニューアル



KAJIMA DESIGN
小管 克己+上岡 修+小野和幸
第2回芦原義信賞入選
オルゴールの小さな博物館



中田 明 (北山杉)
鈴木英希 (大理石)
増田憲治 (織部製陶)
コラボレーション展示
(コーディネータ 藤井純子)
天然素材一家「木・石・土」組展



(株)タカタ
「石屋さんのつくったテーブルと歴
史を語る石の証明」



菊川工業(株)
ハイテク技術と伝統技術コラボレーション



(株)ユニオン
こだわりのデザインと技を「考える」



大塚オーミ陶業(株)
(株)坂倉建築研究所
大塚国際美術館
サレジオ学園



アートアソシエイツ八咫
人をつなく 地域をつなく 時代をつなく
業と技

QACA 15周年記念展覧会出品作品



東陶機器(株)
充触媒技術の展開・応用



日プラ(株)
「ブルーオーシャン®」
ドーム型リアルプロジェクションスクリー
ンシステム



鹿島建設(株)設計
エンジニアリング本部
北 典夫
汐留タワー



フラックス・デザイン
渡辺 友之+原環
2001年~2003年客船インテリア
と工芸のコラボレーション



大成建設(株)設計部
中藤 泰昭
BUNKA GAKUEN
KARUIZAWA VILLA



(株)三菱地所設計
丸ビル ARTPROJECT-建築とアートの
インターフェース



(株)安井建築設計事務所
「A+A」



大成建設(株)
「建築の相貌」



(株)竹中工務店
「つなく」



会場風景



会場風景



会場風景



会場風景



会場風景

15周年記念事業実行委員会

委員長 近江 栄、副委員長 宇津野和俊、副委員長 小林治人、日高單也、露口典子、七字祐介、倉本真弘、岩崎治保、馬屋 正、玉見 満、高部多恵子、石井博美、坂上直哉
専務理事 中島昌信、事務局長 伊藤留雄

掲載責任：日高單也 レイアウト：小野行雄 写真撮影：二井 進



CONTENTS

| | |
|--------------------------------|----|
| 設立15周年記念事業 「歴史的建造物保存」シンポジウム | |
| 第13回AACA賞 | 3 |
| 第2回芦原義信賞 | 6 |
| 開催にあたって | 9 |
| 15周年記念覧会 | 10 |

■表紙デザイン

高部 多恵子

表紙の作品を募集しています。
事務局までお問い合わせください。
尚表紙のレイアウトは、広報委員会でいきます
のでご了承下さい。

発行：観日本建築美術工芸協会
Phone 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20
建築会館6F

郵便振替：00110-2-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会

委員長 玉見 満

副委員長 高部多恵子

石田真人、山崎輝子、長谷川亨

瀬川秀之、竹生田正、垣内泰三

事務局 長 伊藤留雄

制作協力：中栄印刷工業株式会社
